





楚しきしよのたふき昔のよめい
今もあやしくも見ゆるまは
た敷き所ゆりおの川園へ
わりきりもなまはゆり一系といふ
なりて代々集家との抄といふ
えひて字わたりありあまの
なまはゆりといふ書といふ
抄といふ書といふ

見たりえはけい
かこのうゆりのなまはゆり
拾要抄といふ
抄といふ書といふ
何よけい
もやまのなまはゆり
のなまはゆり

中とて大分人よりをうて其森のちら森
わめゆり若ぬとよしの日景ぼろく山雲水
まうふりの葉の文字をたよりうて吹才を
ゆめゆきいさほ方ていれく緑色葉拾要
抄といふげに地より中地也文字をとり
ゆめゆきと後後ろりし和しめまへ
よるていれまよりのゆきと入ゆり然も
えいといふぬと葉をとりゆきとゆき

假若流しひと見まのまくとおもて東極
黄門の拾遺魚草一うきまのゆきとせん
定かふまのゆきひと肉と裁ゆり或は
野の考れ玉つたうよるいぬんたむを
吳竹の世にゆきと双紙るゆきと
うんたむふゆきとまゆきとゆき
はゆきとゆきとゆきとゆきとゆき
ゆきのゆき

一人傳虛 万人傳實

即也明心 附物顯理

續毛葉拾要抄



○伊以委已 意夷異違

○伊勢國 勢州十五管 南北三日半

伊勢ト名支天照豊支兩大神宮歎現鎮坐

一故也天照者日神女体也豊支者月神男軀也

一者○也根本不可得故伊呂波假字為

始之則伊通入伊八陰女司也 下者也遷

變不可得也勢通入勢陽男用也 先根本○

字生ノ万物遷変可合元量无教言顯八
万聖教毛演說記得也然祝賀而此抄之初毛
雖多祠先置之也仍伊勢物語秘傳二字隨地
毛伊勢二字ハ也也也者是十二摩多
點畫文字自之興也可者也也五躰文也
字母云悉曇云摩多點畫長短亦既躰文
之字成諸字諸音諸讀是也依多梵漢和字
通用之支諸傳各諦也彼國陰陽二神出現

元初筑紫日向國高千穂穗觸嶽天降
聖人皇十一代帝垂仁天皇遷向珪城宮日
丁冬十月勢州渡合郡宇治五十鈴河上鎮
座仍五十鈴宮内宮慈木田宮
上毛曰天照太神是也
豐變皇太神往昔淡路國三上嶽天降在
人皇廿二代帝雄略天皇泊瀬御倉宮日
丁同郡山田原御遷幸外宮毛渡合宮日
國常三子生天御神日

上毛曰天照太神是也
太日靈尊天津尊太神共
オホヒルメノミツミトミヤノミト

國常三子生天御神日

陰陽^神岳跡坐故伊勢國^ト号^ス伊女勢^ハ男也秘
傳^ハ云^ニ伊人^ハ尹^トヨ^ク字也勢^ハ生^ル丸^カトヨム
然^レ諾^ル冊^ニ二神先天降川河大地^ノ木等^ニ産^キ後
一女三男^シ始^テ而人畜^ス奥虫^ノ所在^ハ皆生^ル来^ルト丸
カ也^ト云^ハ心也サ^シハ伊勢^トハ日本^ノ物惣^ク名^ニモ可用^ナト

トモ^ニ两大神宮鎮坐^ル故^ク名^ニ伊勢^ト男女陰陽天地^ノ
二儀伊勢^カ二字^ニ収^メト云^ハ業平秘傳^中哥^ト云

△伊勢^ノイセトハイセノイセトモ^ス為^ルモ^ト也伊勢^ノ
イセ

世^ノ事^ヲシ^テ以^テ思^フ惟^ルル^レハ^ニ可^ク秘^スト^モ云

△伊勢^ノイセトハイセノイセトモ^ス為^ルモ^ト也伊勢^ノ
イセ

凡^レ伊勢皇天^ノ神宮御遷幸^ス支國^ノ所^ニニ^テ五^ノ度^也
北^ニ五^ノ度^目ハ和^ノ加^ノ秋^ノ山^ノ宮^ニ移^リ給^フ于^テ妹^ノ宮^{ヨリ}渡^リ合^ス
宮^ハ遷^ル坐^ス也^ト西^ニ行^ク哥^ト曰^ク 渡^リ合^ス宮^ハ北^ニ六^ノ度^目也

△中^ノ般^ノ卷^ノ少^ノ祢^ノ代^ノ也^トも^ト日^ノ本^ノ北^ノ北^ノ村^ノの^ノ下^ノノ^ノ傍^ノ余^ノ長^ノ

又^レ伊^ノ勢^ノ祢^ノ曰^ク ^{アルニ}年^ニ事^ラハ^レ河^ノ下^ノ新^ノラ^ムコ^トガ^リラ^シ
神^ハハ^シク^ラフ^ク又^ニ ^{由^テ名^ニ羅^ハ河^ノ初^メ集^ル云}

△釋迦^ノ業^ノも^トソ^ノカ^ノハ^レ日^ノ本^ノと^モ少^ノ年^ノ人^ノの^ノ傍^ノ余^ノ長^ノ

是奇八秋迦如東ノ法種トキハ集ニ入也社司撰名集也

△平之也也者義代トキハ内分の文代ハ其の云

ト等也代宗迹類アリト云トモ神名ヲハ不知ト類

申社司アリト也ト事ヲ尋申セシニ内宮ハカリト云

八重垣ハアシ外宮ニ有ト聞エタリト云ト云

青垣玉垣瑞籬四重次壇表系ト云ト内宮ナリト有由ハ傳セリ

風雅集ニ後伏見院法書ト云トイセ也神路山尖申也

△神路山内分の文代宮櫃カハカハ其末ト云ト云

續古今集ニ太上天皇法製

△中軍乃綿の事向神路山ト云ト云ト云ト云ト

法也ト云ト出雲國雲州十管東西二里山陰道八ヶ国内

世にト云トト云トト八俣大地アリ尾ヨリ常ニ八色

雲立覆地オホフト云トト云トト

出雲大社素戔嗚尊坐也

天照太神法弟三男其一男也彼尊太神ト云ト

為給于法惡不止坐其取兒屋根余法禰

有^レシ^テ團食^シ^テ法^ハ惡^シ知^ル食^チ天上^ニ出^テ去^リ杵雲團
降^リ坐^ス地^ニ祇女^{アリ}母^ト申^テ手^ヲ摩^ル乳^ト云^フ父^ト
脚^ヲ摩^ル乳^ト云^フ彼女^シ八^ノ稻^田姫^ト云^フ爰^ニ脚^ヲ摩^ル乳^ト
素^盞盞^烏向^テ言^フ彼^レ河^上鳥^山上^ニ太^山
了^リ麓^ニ後^ニ地^{アリ}陵^谷横^ル八^箇頭^ニ
松^栢樹^生村^トり^彼五^口カ^シ女^今独^残八^箇箱^ト
田^姫吞^シト^干来^シ歎^ヤ上^ニ尊^娘我^ニ夕^合
地^シ可^ト也^ト安^事ト^干獻^尊運^勢待^賜
也^ト可^ト也^ト安^事ト^干獻^尊運^勢待^賜

从^ニ彼^レ動^出岷^山雲^ヲ發^シ滄^海波^浪思^且
暎^光燭^天地^モ風^塵計^也良^ヤ来^ル素^盞
盞^烏尊^劍授^キ寸^寸切^給地^尾至^キ不^レ
切^怪見^賜劍^{アリ}是^レ取^テ天^上賜^テ天^照
太^神奉^給是^レ村^雲劍^ト云^フ渡^會五^十鈴^ト
河^上遷^幸迄^レ此^レ沙^劍持^坐景^行天^皇
皇^帝太子^{日本}武^命東^夷追^討爲^レ行^行
向^賜取^光伊^勢太^神宮^ニ詣^給取^倭妃^皇

女此叙^{ナリ}之彼尊^{タマヒ}獻賜^{タマヒ}後^{ノチ}草薙^{クサハヒ}叙^{ナリ}云云
素戔嗚尊^{スサノヲノミ}出雲國^{イセノクニ}素戔嗚河上^{スサノヲノミノカミ}宮地^{ミヤノチ}上^{ノチ}
稻田姬住^{イナタノヒメノミ}給^{タマフ}可^シ是^レ素戔嗚大明神^{スサノヲノミノミコ}曰^ク大神
宮^{ミヤ}ヨリ^{ヨリ}中^{ナカ}調^テア^リク^ニ所知^ルニ^{シテ}一年^ノ十二月^ノ内^ニ十
一箇月^ノ進^ミセ^テ賜^フ政^ヲ四^方神^ノ達^ニ皆^{シテ}出^ス雲^ノ國^ニ
給^{タマフ}上^ノ十^月之^日皆^{シテ}出^ス雲^ノ國^ニ諸^ノ神^ノ達^ニ皆^{シテ}坐^ス
間^ノ彼^ノ國^ニ三^日神^ノ有^リ月^ノ上^ニ曰^ク余^ノ國^ニ三^日神^ノ有^リ月^ノ上^ニ云^フ也
出雲大社^{イセノオホノヤシロ}曰^ク勢^ノ至^リ化^シ現^ル也^月天子^ノ上^ニ七^日日本^ノ神^ノ親^ト
上^ノ云^フ也^{イセノオホノヤシロ}云^フ也^{イセノオホノヤシロ}云^フ也^{イセノオホノヤシロ}

ナラセ給^{タマフ}下^ノ宥^メ置^ク于^テ天照大社^{アマテラスノヤシロ}日本^ノ物^ノ惣^ノ政^ヲ所^ノ上^ニ定^ム給^{タマフ}
伊弉諾尊^{イハヒノノミ}陽神^{ヨウノカミ}月神^{ツキノカミ}也^也
伊弉册尊^{イハヒノノミ}陰神^{インノカミ}日神^{ヒノカミ}也^也
伊弉册尊^{イハヒノノミ}陰神^{インノカミ}日神^{ヒノカミ}也^也

此二神^ノ定^ム惠^メ二字^ヲ支^テ婦^ノ陰^ノ陽^ノ始^メ天^ノ云^フ日^ノ月^ノ地^ノ也^也
云^フ難^シ陀^ノ跋^ノ難^シ陀^ノ二^ノ童^ノ是^レ則^{シテ}衆^ノ生^ノ父^ノ母^ノ也^天五^ノ神^ノ
陽^ノ也^地五^ノ神^ノ陰^ノ也^故彼^ノ二^ノ神^ノ天^ノ地^ノ陰^ノ陽^ノ中^ノ間^ノ也^云
伊弉諾尊^{イハヒノノミ}豐^ノ葦^ノ原^ノ中^ノ津^ノ國^ノ開^キ闢^ス日^ノ神^ノ奉^ル上^ニ讓^ル
天^ノ竺^ノ仏^ノ法^ヲ為^シ擁^ル護^ス化^シ生^ル給^{タマフ}仏^ノ生^ル國^ニ鎮^ス守^ル顯^ル給^{タマフ}天^ノ

竺有佛法修行兩山北六千里增特山一切并之如仍
并道峯也南六千里三世諸佛一系持法稱妙美
龍山也兩山連山而一萬二千里大峯也北山出在
法守天祚号大頭王五百座點劫之間久成之教
主示伎行者而日城移天竺大峯給曰壇特山法守
奉法金峯危王靈移山法守奉法野權現
故仁生國法守中世亦天竺波羅奈國坐時向
日本給落末代利益之砌投三天寶鉉給

紫雲卷取日本末一法西豐前國泰山峯下
其瓶八角水精石高三尺六寸一出羽國磐木峯下
一紀州牟婁郡有間村神藏一岩出落苗給
又一說云淡路亦天竺摩訶陀國大王生惡悲心大
賢王申天竺化緣日本未能野權現現
給是仁皇十代崇神天皇治天二年配歲紀卯年
婁郡自天日月形天降給其取阿刀千世包天
飼見猪連往本宮山犬見空吠恠見上標木

梢三月並出弓挾脇合掌白月何離天出
稍月一三出給之何無和給乎奇哉天夏云空
中有聲耳云非天夏熊野三所顯此思食也即
結柴菴奉崇今本宮證誠殿也神告千世曰汝
四度奈始正月一日五月五日九月十五日十六日十月十
五日十六日是云四度東馬是至西船及程皆我
領知久云仍催浦嶋之備四度奈貢菜
權現一巖屋法時鳥不立以前海路舟不能渡

出前仍才二崑奉下以來佳廣大慈悲給八
尺熊形現納受貢菜給故奉等能野也又本
朝年号善記元年乾歲三尺水精釵神花
現給氏人農祖紀伊先生椎葉栗餉盛
奉備其後椎木三面鏡形顯給新宮是也
灵驗新故新宮申也又清淨本山本宮曰對彼
新宮曰也權現後天竺來給貳法年寸米粒奉
未坐其貳始我朝酢酒造出給故酒名神寸又

自波羅奈國左右脇四姓氏人隨身給宮主

能野酒人高橋是也重信天皇御宇新宮顯其

後那智五尺鳥顯給本地三所權現者證誠

殿阿弥陀兩所權現中法前善師西出前千手五所聖

子者若王子土面禪師宮地花聖宮竜樹兒宮ハ

如意子守宮正觀音四所明神者二万土文殊勸

德十五所者秋傍小禿倉地主獵師也花行夜

不動也米持金剛毘沙門上三處權現神花愛深那智本本者

花ハ權現千手禮殿八大金剛童子阿須賀大行事七佛

道在八十所王子也史能野權現者前後七生變

身喜木合身弟西皇子神武天皇也昔出中天雲

同是域塵給元日向國宮崎神成給其后移辰

山送日月偏求元生海度縁所或奉東奧磐

木嶽法為化度利生天地加之以淡路船取

嶋利益魚花指棹未紀州出志濱方便於海

解纜權現者三身覺王十地産塩也化他於

海深故云岷岷跡利益本撰大故人間振威秘法
報應之仙身示權化改空假中妙理顯威光志
日本第一大量妙理能野證誠大權現是也

彼三山則日域淨土也一度參詣輩无疑定往生
道中三筆九品淨土在表相證誠殿神拜上品上生
也心王祇陀見之路次道言男名某女名某
尼ハヒソキ法所ソリト云如世間改名字即絶
凡夫執心着想破迷情入發心修行一不犯十

惡則持十戒也凡我國神明者或從劫初影現
又從佛法傳來以前代執坐故正不顯佛法名神明
本地皆是久成薩埵往古如來故替化儀改
風躰宛生利益方便迴給者是

隆弁

△ 然於此標也...
△ 予...
△ 形智...
△ 百...
隆弁

△此經形之神之山名之云のりそくすかた神
△このまのむすの屋人しむれまの山名は
△若田川しむのりまの神は長しむのり
伊勢并尊太已責申大唐神農帝化生為醫
道本主也而後豐基原水德園為衆生濟度
今皇持統天皇代法宇大化三年未越知峯金洞
邊顯坐其後元明天皇代法時和銅元年白出
天嶺化現給麥秦澄大師天龜二年二月十

九日以玄昉僧正十一面觀音法今依雄谷洞入
行給又元正天皇法宇秦澄和尚養老元年四月一日就權
現神勅臨平泉寺林池取貴女忽現告和尚
曰我雖有天嶺帝遊此林泉以此處為中君上護
上皇下撫下民和尚諦聽吾乃伊勢并尊也今
另妙理大芥此神岳乃吾神代伊勢并尊改取都也
吾日域男女元神也天照太神吾兒也吾本地真
身在天嶺往而可祀此言未訖神女即失和

弥感灵威作仙徒揭焉乃登白山嶺居綠池
測一心不乱礼念今時從池中現九頭童王欣和
尚語曰此是方便示現也非本地真身曰現上
面觀自在尊妙相遠眼光明曜頂其特和尚悲
喜充胸感淚霑袂誓首歸今頂礼仙足白公
言像未衆生共拔濟利益給觀世音搖金冠而
瞬慈眼乃領納給拜拜未訖和光妙体早隱矣
養老六年為元正天皇法花被建立寺社自今未

滿山千祥徒惣為仙法弘通別為祈國家安
泰傳就鳥頭之教跡於白山禪之風寫童持智
水於平泉清淨之辰者也白山有七名一蓬萊
神山二高間原三高米鉾漏四白山是白唐名之五千
木嶺六千倉嶺七置倉嶺云其神耳呂岐
命神也耳呂美令神也或保誓尊男大已資保林册
尊御前中凡此御神事大日經說曰佛法大棟
梁妙理大善菩薩云超世悲願本主華其堂來

延真身也吉野山藏王權現一体兩名神也亦此
山三十七所仙岨在之此内十ヶ所仙洞注之

一長生神宮洞崑崙山云 圃菊アリ二不老仙宮洞地藏化主 神農某中リ

三不死神仙洞康生院化主 長命甘露中リ四光明神仙洞弥勒化主

五紫微宮洞七皇カヤキ 望也六三光神仙洞神女未詳 甘露降下ス

七神驗仙洞天女秀命 甘露中リ八賢王神仙洞諸仙御着理 兼分シ説也

九童神仙洞元熱池童王七宝 降下法ヲ輕少也十並光神仙洞都卒天象 未下也

△雲の乃々この白く起すもその年月は

△君の切りの白く起すもその年月は
その乃々を録の山もその年月は

書也 日本記

△美のひかたをたまたま佛書 日本記

△法何哉ト云心也 如言六十二ト云也

△心心もその年月は

△心心もその年月は

△心心もその年月は

昔伏見翁上云云者伏見野住于三年無言又人
不見如偏盲龍耳波羅僧正天皇言曰渡于奈良京
入于大阪比野之通給見于三平舞之已唱高ラヒ
且云葛城山仙人也下云以哥也惠心往集義委見多
定家傳曰桓武天皇山城國菅原伏見里宮作住
給自天人來常住也恠思以言曰尋自天金札
降其札此哥アリ札裏在名字有日照太神時
人說言此國長異國欲元我住此國守國土

也云日本伏見二神嫁見出之故也爰宮作給奉
祝大神宮也今伏見御札宮下云見也秘傳

今者春部書今春也

佐保の河原美柳今い善くと如
十壽舞二駒鉾竿八打ア元故如此ツク也

五本柳ト春門ニ柳シ殖物也漢土ニ

五柳先生ト云火ナリ柳シ五本植テ愛セシ故ニ号ス

五柳先生本在山偶然為客落人間

諺曰

百葉歌曰

これなる

我家のまき柳をくれば吹らぬ風を
吾家のまき柳をくれば吹らぬ風を
いさよーんたき 岩を流す

岩は 海もくくろく 鳴りて 夢をきけ 邦
いさよーんたき 万伴佐村竹上谷 小篠也

吾家のまき柳をくれば吹らぬ風を
サ竹也 カソケキトハ サヤケキ也

いさよーんたき 帆カケ舟也

わが家三葉のまき柳をくれば吹らぬ風を
いさよーんたき 間こや 夕云トハユラレ也

いさよーんたき 求食 谷廻嶋火共 漢文火共 磯廻也

海まきとていさよーんたき 焼火をわけて 此の松原
オホニシトハオホツキキ也 漢文 夷点ニトホス也

籓は 焼海をわけていさよーんたき 神下
いさよーんたき 海東也 小東ト谷 沙別也 大東ト伴入京哥

萬葉 名所也 十丈
岩のこゝろ舟中せりくはこゝろのひらきの團とけり
又所系

いさしりくわびん 訓詁題雲言 雲中即夏

銀河沙漲三千界 梅嶺花排一萬株 千九百株 白

いさしりく 引辮ト谷万卒尔波 いさしりくト丸是氷波 千ヤカ十ニ百多也

いさしりく 今も又丸之女郎也 家也 此姿わり

いさしりく 五芝下谷丸色之也 文選天台賦在之

いさしりく 五十串立上書御幣事也 五十本立也

いさしりく いさしりくすまもつと秋物いさすの玉も見え

田水口奈

ミトハ素禰酒也ウエ下ハ鈿玉ト谷雲聚玉冠

後付ルカサリ也社王トハ社祭祝社官トト也

いさしりく 岩戸柏上谷石名也

いさしりく 吉野いさしりく柏の丸なる我おのん義成也

いさしりく 磯間由上谷磯間川流落也

いさしりく いさしりくは山いさしりく及わらふもいさしりく

由ハヨル心也

いさしりく 磯志三井勢弱ノ右所也

△山の家はいつの月かあつて錦と織てるもの
晋石季倫居金谷春花滿林作五十里錦繡

ト云心ツヨメル事也

いさし 氣調ト各朗詠曰遊仙岨、文張文成

氣調如兄 崔季珪之小妹 季珪美男也

いふにゆの 源氏 猷トモ其甲斐ナク思ハル心也

拾 △いさあまの益田池の祇ねをういふよまをわかれ

△わさくといふにゆのまをういふて思ハル心也

いさあつじりさう 菜摘籠也

右コヨ早稲多キナラセ成ナムメサシ又ラスナ沖ニシシ辰
一説妻ノ重部也和布取也 證言云

いりおろしを 塩満テ入磯也 又右所トモ云

△塩ニテ入ヌル成ノ草ナシヤミラウスナクコララクノオホキ
是ハ唯成ノ草也

いせのうきあか 石上布留ト書 石上モ布留モ郡
名也並所ナレ故ニ云ツル也和州也

いんぐす 岩根也 石金共

石金ノコリシク山ニ入初チ山ノウカニミイ子カチニカモ

△**林**サスレイ子コリシクニ吾野ノ水分山ヲ見シハカ子シモ

いんよのあくみちて若根ヲ踏クホカラ云也

いんあくわき 万般列衣神ト書天河傍坐神ヲ云

いばら 若クニル也万水ニ云ツク也

いぢのふか 夜益子也

△**時**シラハ辰ノ市シクイ千白クサケトモ花ツク人ツキ

もちまゆ 灼然ト書

△**楊**野ニサツトルキニスイ千古ク名ニシモチカシコモリ妻カセ

サツトルトハヒヨクト踊ヤウニシチ鳴ヲ云也

いぢぢはま 箱妻ト春秋シクノヒカ也

△**カ**ツラキヤ本儀ニヒカル箱ツシ山伏ノウツ火カトヲシ

いぢぢん 万幾千機ト春

△**イ**ク千機ツシハカ秋ノ山毎凡ニ乱ル錦ナルラシ

いぢぢん 七夕ノ逢夜枕也

△**ヒ**ラ星ノ天ノ石舟子チニ今夜ヤ夜ニイツ枕スル

△**吾**恋凡白ハオモト今夜カモ天河原ニ夜枕ニク

オモトハ家童子也

いぢぢのあし 不知寝里ト書近江國名所也

△**東**路ノイサ子ノ里ハ初秋ノ長夜ヒトリヤカスセケリ 新撰

新撰

新撰

ちふら市打也罪人ヲ市中ニ打取之也

ちちるこ殊千重波上書ニキリニヨスレ儀也

ちちる万変也イモチト云モ同

ちひめいらのめ同書曉ツ云万七イナヒ又明行上云

ちちるよりりて万手取ヨル也イハ休字也

ちうしと万トラコメタレ也イハ息字也

ちのまて万イトコウ也

ちちる婦家也 いんちちる万家也

ちちのせき天岩戸ノ開也

宗義親王

ちちのせきの岩戸ノ開也

空ニ開アル非ス日月行リ路ニヨセチカクヨメリ

ちちる代田上書スヨリア田ヲ云也

ちちの田いんちちる万手取イロモウいんちちるイハ休字也

是ハ一候カリアレ田也

ちちのりもの無学者之事也

本文曰

見文字則如犬守星ト云云

ちちる庵上書廬共イホサストモ云ムスラトモ云

ちちる木木春けり木房木也

山里ノ庵ニタケルトモチノ向キ十二歳ノ里人源氏抄ニ卷ニアリ
いじり 婦無也 心也 眼无也

いささか 源山ノ中ニシテ也 いさか 飯掻取伊勢

いささか 誘言同伊勢 いささか 寂健上各 源氏

いささか 藤目明行空上各 万葉

いささか 伊勢男海士仙郎大夫真名号 いささか 勤功人上各 武志 万葉ニアリ

いささか 岩倉小野 家宅 家居

いささか 夫人妻也 付し 鳩

いささか 愈薬也 雌蚕日

いささか 大應 又いさか 謂曰言云尊備

いささか 晚鐘 黄昏上書 いろそで 色交上各

いさか 拾寺 山里のいさか 禪杖伊勢 いろそで 宗神一也

いさか 祝賀上各 いさか 宗神一也

いさか 日林伊勢 いろそで いろそで 世業伊勢 いろそで いろそで

いさか 勢威上各

いさか 雷上各 遣上各 遣上各

いさか 雷上各 遣上各 遣上各

いかにくると霹靂電 いぬじり 牽牛

いぬお 軋方 いぬお 蕪草

いぬお 賄猪 いぬお のこ 猪子豚掃

いぬお 初敷の止れいのかり菜にせらるるのやまお

いぬお 蟪蛄 蝻 海髪上各海草也

いぬお 頂个也 蕪山也 雲脂

いぬお 飯 いぬお 薨 いぬお 聖屋太子

いぬお 瑞籬 いぬお 線縷

いぬお 源氏色く草也 いぬお 軍戦

いぬお 源氏 いぬお 家人也

いぬお 源氏 いぬお 生天也

いぬお 石差 いぬお 稲刈入

いぬお 井 池械 いぬお 魅魘カノ神也

いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏

いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏

いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏

いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏

いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏 いぬお 源氏

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

いんぎん 石炭森 いらり 箱荷山洛陽辺 思ふ

金つり目子すくも 箱荷山の文とていふまゝすすいんぎん 箱荷山

いんぎん 苧象

いんぎん 覆盆子

いんぎん 鱗

いんぎん 魚也

いんぎん 魚了

いんぎん 魚玩

いんぎん 板屋貝 文蛤

いんぎん 貽貝

いんぎん 煎海鼠

いんぎん 籜 籜

いんぎん 鶺鴒 斑鳩 鶺鴒

いんぎん 鼠狼 馳

いんぎん 嗥犬也

いんぎん 嘶馬也

いんぎん 嘶喝

いんぎん 吧其勇

蟻 蟻 蟻 蟻

江 脈 浮 飾 經

耽 目 疔

犧 牲

飲 炊 饗

鑄 鎔 鑄鐵形也 史記在之

警 戒 禁誡

訝

聞 導 言 說

早 晚 何

審 未 審 審文 集

行 伊勢物語

醫 師

有 族 有 識

從 父 弟 內 戚

再 從 兄 弟

稚 幼 少 金力 稚幼 少

身 合 身合 是記

音 信

諱 謚 諱謚 名雅也

可 畏 愆

無 云 甲 斐

幸 心 辛

忽 緒

苟

鄙 陋 賤 野人也 五位六位云

固 辭 退

前 物 賤

瞑 忿 怒

營 經 營

平 題 矣 也 煩痛 姓也

枕 初

いさまより一潔齋清洋いまよりいりり今様也源氏

いさまより一後掬源氏いさまより一権藤史記より

いさまより一類源氏いさまより一総源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

いさまより一源氏いさまより一源氏いさまより一源氏

位中将

△名のこまこけの委みの村席に今八百と書る
射場始スラキ天皇ら場殿ニ出サセ給于是乃々後スル
也公卿以下束ソク帯オビニ是ヲ射也神ノヨソニ様あり
口傳アリ靴ツチサレ靴ヒキト付射席ト云ハラシ射座也
天子モ馬ウマ射席イシヲ被カケ委オミハラシ射給フヘキ由也トシ
こまこけ 神今食ト書 同少題
△亦ねとて今を備るこまこけ神おの采サキ給タマハ
秋今食ト帝天秋ニ秋供マケヲ膳奉給也昔ハ
八省中和院ニ事コト幸マカル自秋膳マケヲ備給ル

今秋秋官ニ有ニヤ

いよく 弥 寂寞トモトモ弥村夜 残鷹トビ雪ユキ陣マ陣マ

△里をくろの村竹タケゆつさサ杖ツチ杖ツチ雪のや同向の居イ居イ

いよのせちよ 五日節令 中書方公題

△三寸給ふと成者 々々々々六のけしけは給

九月五日宴ウタガハシヲ群臣賜也今ハ絶トナレ左右近

侍ウツリ左右近サマの左右兵ヘイ弟ニの草蒲クサハ浦ウラヲ奉ルヤヤ

輿ウトナナ南殿ミナミノニカニ奉ルヤ

いよのこま 和泉国 泉而 四管 南北 日市 五管内
△あつるが井の浦の白鹿を里の家に飼ふ

いづのくに 伊加 四管 四方一日 東海 十五箇所

伊加のく 豆州 三管 東西一日 月伊加権現鎮座

同三嶋大明神坐 本地大通智勝佛也

子葉破伊豆の宮に 湯のりちやまき 於る也

おのりちの宮に 湯のりちやまき 於る也

同幡國 因州 八管 南北二日 山陰道 八箇所

いづのくに 石見國 石見 六管 南北二日 同

いづのくに 石見國 石見 六管 南北二日 同

石見のくに 伊加 本向より 我神 三嶋 八箇所

いづのくに 伊加 四管 十四管 四方二日 南海道 六箇所

いづのくに 伊加 三管 湯のりちやまき 於る也

いづのくに 壹岐國 壹岐 二郡 四方一日 西海道 十箇所

いづのくに 伊加 湯のりちやまき 於る也

いづのくに 伊加 湯のりちやまき 於る也

いづのくに 伊加 湯のりちやまき 於る也

いづのくに 伊加 湯のりちやまき 於る也

湯のりちやまき

一 冠之所糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

一 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

一 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

一 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

一 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

一 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

△ 冠衣之糸尾目上書

イナシセ鳥ト付ニイノ葉集シ引文ニ出セリ
異鳥ト見タリ或鷄ト云セ鷄尾赤長
箱ノ負タル様ナシハ云リ或云シト云セ其故ハ
順カ和名ニ箱ノ負ト各音ニタウトヨミ訓ハ
イナオセ鳥トヨメリ 鶴ト各

秋の四ノ名也多クハ之ヲ羽ノ本葉ヨリト云フ多
次清小細言カ枕草子ニタウト云昔鳥ニ箱ノ
オホセキ有ケルシ秋カサントキサキヤニ又依之ニ

昭

秋ニ戌ハ箱ノ負鳴キ是ヲ乞又借トト鳴也
家隆或云タルハ常世國ヨリ来ル鳥也其尾
義也 中箱ノ一穂ハサニテ此國ニ落ス是ヲ取テ植
始ト云事アリサキ箱ノ負鳥ト云也

夕暮小片山ノトクニトクセハ箱ノ負多ク其ノ
名葉ニ頭照義云雀也秋箱ノ食トキ飛カキ
キアル也又云水鷄也 雀シヨル美可也

雀ニシヨル美可也其ノ名ハ雀ト云ル也其ノ
名ハ雀ト云ル也其ノ名ハ雀ト云ル也

不偷盜

△ 停る事し一葉するも破るて盗むるは罪なり
不殺生

△ ころねふ事し一命を殺すは罪なり
不妄語

△ 後世にわづらひし事しは罪なり
不沽酒

△ 老の女をよむ事しは罪なり

不飲酒

△ 淫の國をよむ事しは罪なり
不自損毀他

△ 氣の用をよむ事しは罪なり
不瞋恚

△ のりくら人のあつた事しは罪なり
不謗三宝

△ 三つは變りてあつた事しは罪なり

不慙貪

△我も不おぬるもさ愛はれるがもるべしたんかたしめる 大徳正觀後 おもしろ

△移りてもまし戒めるまいにのさつりわりしともあらず

△いで △つりし十ト云様也。イキヤ共云 其全集云

△つれ我と人からのめり大船ははいぬいた物の心を 是

ト青トカメツハハヤメト云也ユタノタメトハ大船

磯ハヨセス沖ニ浮墨ハニトハ寛也タメトハ浮動

也物思ハ舟浪ニ浮テユシシタメトカラ浮流思

心ヤ一ノ業ニ猶豫ト言曰青ト

△我心ニツミタニウキ又繩ハニモ沖ニモヨリヤカ子ニシ

是モ心也ユタノタメトニト曰

音ナシハ通テヨメル也ヤスラフ心也舟モ尊モ浪ニ

ユラシテトカラノタメツフ心也此ウキ又ハノユタニタメニタメ

タト云青トシ不知人昔モ今モ大舟ノユタノタメ

トハ船ニ入水ノハ湯ト云ソ其湯ニカク手ノタメニ

ヨセテ物思事ヲモシテト云ト概スハ事外
ナレ僻事也。曰古今ニ一橋河諫

△我々の思といふおもふは心におよぼはる

ナリ。貴僧有ケルカハ情宮ニ奉命ニ于三七日
水食ヲ断テイカナル仏法ヲ修メカ速ニ生死ヲ出離
セ。何宗ニ入テ早ク菩提ニ到願ハ大悲心カシ
以テ告示給テ心ヲ祈精ニ奉リケルニ齡八旬計
老僧鳩杖シツキアラタニ此壽ヲ示給ケルナリ

我ッノ思トイハ有キシト他カ本願ニ乘ル一
心不乱ニ念仏セ。性生極楽ノ由路アルキニイテヤ
心ハ大幣ニシテトハムツカレ心ヤ此方彼方ヘ一方
ナラヌ心其散乱ニ念ヲ自カ修行成就示給
爰知仁王經ニ十信并心ヲ譬言如輕毛隨風東
西ト説リ何現我等信外ノ凡夫シヤ

定家傳曰此右注念仏者自見也彼僧何メカ生
死ヲ離テ新念セシ。取神示給。是心即仏即心念仏

ナシハ我必深シ見得セハ則生モナク死モナク不
来シ自知ハ是神是仏也我シノニ思トイハ有半
シトハ我心性外ニ仏ナキ事シ示イテヤハ大幣
ニキトハ心外ニ出離シ求シ愚ナリト示給フ此壽
ヨリ終ニ見性成仏ニイタシリ

ハ不 何ト答 長秋詠藻後成家集ニ云

いさりのけり朝ふり人々此のりもさる

ハ不せんふせまういふ神起りけるは此の妙
るらん

ハ

ハいさりかみいさりあはれし書きまてい
か入る実蓮して故内大臣のひよ二位中納言

さまはれりあはれし書きて西宮まろいあそよ

ハいさりかみいさりあはれし書きて西宮まろいあそよ

ハいさりかみいさりあはれし書きて西宮まろいあそよ

ハいさりかみいさりあはれし書きて西宮まろいあそよ

ハいさりかみいさりあはれし書きて西宮まろいあそよ

ハいさりかみいさりあはれし書きて西宮まろいあそよ

家出卜書 詞苑集 山家月卜云三少源義平

△此 家出卜書 詞苑集 山家月卜云三少源義平

△此 物オソロシキ様ナリ云云

柳弘

△後拾 八字志乃漢の因りせさふささや

△右 多他祿のわらぬのまゝあり

△右 女文卜書ハ

此心也

△此 岩柳 拾遺才七物名 隱題也

△接 接心也 云々 福也 云々 云々 云々 云々

△接 膝行卜書 日集云云

△接 季事ハかゝる事ハ云々 云々 云々 云々

△接 唯カスレト云詞也 一文字ハ休字也

△接 ツリ石也 是モ一文字息字也

△接 流志ニケ 一ヶ井柴原也

△接 ニイラ木也 榕卜春 吾曰閑院

△接 冬ハ此中此物ハ云々 云々 云々 云々

所出 海ノ底ニ照ス玉也

△有念 かの原をて度々 次所 玉より 八神 ありま

川 石神 道ノ辻ト云ル小社也

金 石神のまゝに 祇園のまゝに あり

石疊

四 石のまゝに ありけり とも 君と云ふ 物あり と思は

開 忙書

朝 孫弘 閑帝 無閑客 傳説 舟忙 不惜人 白

朝 候日 高冠 額拔 收行 砂厚 履声 忙

無 嗔 恚 心 法文云

思 辱 及 羅 密 行 時 唾 吐 懸 打 擲 一念 不起 嗔 恚 也

昔 在 國 王 名 歌 利 王 諸 采 女 列 坐 於 林 中 王 於 思

辱 仙 人 前 睡 其 間 被 切 王 手 足 寤 後 念 嗔 恚 遺

恨 之 心 若 是 虛 言 我 疵 不 為 平 愈 云 時 疾 俄

平 復 是 滿 思 辱 收 行 客 行 後 生 終 成 狀

迦 佞 是 也 此 思 辱 仙 人 住 王 城 之 林 中 也

おのり 多詞 獵頭ト云 横檢提狗日

おのり 日 大のからに付 モトシテハ ちま果つて モトシテハ 釣る也 モトシテハ

おのり 日 檢饅ト云 大の長のちりて ちまの長 ホウシ ちまの長 ホウシ ちまの長

おのり 日 餅袋ノ口ニ飯ヲカクルヲイリト云

おのり 日 ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 幾ト書 巨多大 何等 モトシテハ ちまの長

おのり 後 ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 奈詮也 亦音信也

おのり 後 ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 イト又ト云 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 谷ツ云也

おのり 拾 我の田々 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

おのり 日 巖 崑日 崑日

おのり 日 君 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長 モトシテハ ちまの長

磐岩

窟 岫ト書

千石の形を為すに長なる所の底を云ふ也

石礫

石 礫ト書

柱礎 礎ト書

堤イリ也 械ト書

後池のつひわりのかき置みなりなり
同と山内英代よりたぬたぬのつひわりの
稚ト春弱ト書

是のまは山内英代よりたぬたぬのつひわりの
えりてね

火相不可得 呂 盧 爐 臚 蘆 露 路 路 乃

乃 盧 橋 乃 春 千 半 上 後 也

盧 橋 花 開 楓 葉 衰 出 門 何 處 望 京 師

房 字 乃 伊 乎 上 後 橋 霜 雪 乃 伊 么 故 伊 未

乃 作 掩 故 也 朗 詠 曰

盧 橋 子 低 山 雨 重 橋 欄 葉 戰 水 風 涼

子 低 下 橋 乃 矣 成 乃 乃 乃 云 其 乃 雨 降

乃 乃 乃 矣 乃 乃 乃 乃 乃 見 乃 乃 乃 乃

山口木也風吹公葉ソヨヒテ涼也

序橋白中_ニ開露_ハ簟_ハ桐_ハ乳_ハ底_ハ卷_ハ風_ハ簾_ハ

ろくろ 露_ハ簟_ハ春_ハ簟_ハハ_ハ多_クカ_レト_ク後_也 朗曰

露_ハ簟_ハ清_ニ涼_ニ夜_ハ消_レ風_ハ襟_ハ蕭_ハ灑_ハ先_ハ秋_ハ涼_ニ

題_ハ池_上夜_ハ憶_ハ人_ハ白_ハ天_ハ作_レ鞞_ハ而_ハ人_ハ夏_ハ日_ハ編_ハ青_ニ

竹_ハ為_レ簟_ハ敷_レ床_ハ向_ニ以_テ招_レ涼_ニ文_ハ選_ニ曰_ク珍_ニ簟_ハ清_ニ夏_ハ室_ニ

班_ハ肩_ハ動_レ涼_ニ思_ハ又_ハ朗_ハ詠_ニ題_ハ秋_ハ紀_ハ納_ハ言_ハ作_レ

炎_ハ景_ハ剩_ハ殘_ニ衣_ハ尚_ハ重_ニ晚_ハ涼_ハ潛_ニ到_レ簟_ハ先_ハ知_ル

秋_ハミ_ユル_ヒト_ハノ_衣打_ナヒク_ノア_フヒモ_涼シ_白キ_スタ_メシ_ニ定_ムル

ろくろ 朗_ハ詠_ニ菊_ハ詠_ニ曰_ク露_ハ菊_ハ新_ハ花_ハ一_ハ半_ハ黃_ニ

霜_ハ蓬_ハ老_ハ髮_ハ負_ハ三_ハ分_ハ白_ニト_ク次_ハ句_也霜_ハ蓬_ハト_ハ示_レ天_ニ

我_ハ髮_ハ負_ハ髮_ハノ_三分_ハ計_ハ自_ハト_也人_ハノ_口キ_髮シ_ハ蓬_ニ

喻_也蓬_ハ頭_ト合_ハ于_ハ子_ハノ_タシ_カニ_ト後_也美_ハ女_ハ髮_ハ

シ_ハ蟬_ハ髮_ハ負_ト云_セシ_ノ滑_ハ丸_ニ喻_也露_ハ菊_トハ_露シ_ノ

足_ハ干_ハ初_ハ開_ハ花_ハシ_ノ新_ハ花_ト云_一半_ハ八_ハ半_ハ分_ハ開_ハ丸_後

ろくろ 露_ハ蛩_ハ不自_ハ暖_ニ凍_ハ蝶_ハ尚_ハ思_ハ輕_ニ

露_ハ蛩_ハア_タカ_ニア_ラシ_ト見_レ蝶_ハ寒_ニナ_シモ_ト思_ハ也

るまの千尋言露結為霜注云為能草木

之入疑結若之為霜其氣百中寒于喪

亡ト也愁雲暮結為霧曉疑于為霧也

るる偶集言露顆固珠室泉声嘯玉鳴

るる朗詠云白賦蘆洲月色隨潮滿

蕊嶺雲膚散与雪連源順芦花白之初葉

託水中可居者白湯上蕊嶺八子四眼不消

白雲多之溝勿育孤山蕊自生多故蕊蕊

ト云從高山也燐火欲消終大景

るる三麻詩曰槽声揺月到柴門夜長相對百憂生

最是夜深潮水浦ト云末句也

るる朗詠曰下樓娃袖顧階壺

離閣鳳翎憑檻舞上云次句也落花還繞檻

ト云冠也菅三品百諫注曰帝堯取凡阿閣ニ

巢鳳詠帶花疑鳳舞ト云娃ハ美女也長

樓閣玲瓏五雲起其中焯灼多ハ仙子

中有一人号玉妃ヒト雲膚花白クモハダハナシロ參差シラカ是レ有リ
檻ハオホシニトヨム階ハキタハシトヨム花落チ繞リ檻ニ
中央ノヨソラニ秋風ノ憑リ檻ニ舞ヒ花女ノ顧リ階ニ

ノ袖ニ似ル夕ル也ト也ト
樓上三三寐寐言言樓臺筆筆海海也也草草樹樹發發天天香香
國國樓樓臺臺從從耳耳碧碧峯峯一一徑徑入入湖湖心心

ろろろん 千字文 樓樓觀觀飛飛鷺鷺
ろろろん 千字文 驢驢騾騾犢犢特特
ろろろん 千字文 馮馮馬馬

ろろろ 中中與與言言 輓輓輻輻知知為為誰誰辛辛苦苦

夜夜中中庭庭將將月月明明 棟棟樞樞知知者者昔昔一一婦婦人人有有
亡亡夫夫シシレレタタクク辛辛苦苦輓輓輻輻知知ススルル如如シシ昭昭公公云云吾吾民民
視視子子如如シシ思思民民辛辛苦苦輓輓輻輻知知スス如如特特也也トト曰曰

ろろ 鷺鷺鷺鷺之之雪雪非非同同色色 サキ也
鷺鷺鷺鷺之之入入瓊瓊波波心心 抖抖擻擻一一周周銀銀綉綉線線
ろろ 鱸鱸魚魚トト春春ススキキ也也

秋秋風風一一箸箸鯽鯽魚魚鱠鱠 張張鞞鞞搖搖頭頭喫喫不不還還

ろくろく 語曰 龍鳥 雲 飯 鷹 行

ろくろく 鹿角舟 小船 上モハ 高キシ 喻云

水紋如席浪痕收 謝遺湘中 鹿角舟

之 睡 乎 域 之 静 多 乃 必 舟 今 之 中

ろくろく 角里先生 上 谷 南山 四皓 其

天也 園公 綺里季 复 黄公 上 四人也 秦代

一 獸 山 入 漢 昭 出 于 惠 帝 仕 之 者 共 也

ろくろく 鹿野苑 天竺 波羅 奈 國 也 杖 尊

鹿野苑 千二ス 朝日ニ 雲消 千春ノ 光ニ 先ヤ 三千ヒク 定家

阿含經 說 給 所 也 日本 六 春日 野 是 也

ろくろく 證道 哥 云

六般神用空 不空 一顆 光 色 非 色

ろくろく 六十餘 迴 看 不 飽

多生 是 作 愛 花 人

ろくろく 漏 剋 博 士 唐 名 掣 臺 百 官 内 十 二 時

ろくろく 漏 屋 毛 ル イ 工 也 雨 露 夕 三 古 宅 云

ろくろく 踏 傍 上 谷 胡 曾 說 題 馬 後

路傍古木蟲書處 記得將軍破敵年

史記孫武子号孫子兵法學其術達ス

孫子同門鼂涓ト云者アリ是モ兵術ノ學

名譽アリ鼂魏ノ惠王ツカヘテ兵法故ニ用之

將軍ト云而ニ孫カ猶ニサレテ嬖干此孫子

罪科ニ申沈干而足ツ断其後孫臏ト云臏

ハ脚ナキ義父孫ハ足ナキ身上成干モ其術不失

間亦國ニ行干由忌ト云將軍ニ兵法ヲ教干師ト

ナリ後魏ト云ト軍アリ魏ノ大將ハ鼂也此臏

孫子田忌ニ謀シ教干鼂軍兵ヲ率干馬陵

過ヘシ其路北ニ入通程ヲ勘干彼馬陵路岐干

深谷也路傍木ヲ白ク削干鼂涓此木下ニ而

死ト大ニ春付タリサ干軍兵共此木ノ傍ニ隱伏

待干以火ヲ見之其取射之ヲ作含涓カ此謀

タリ知ラス果干其夜彼処ヲ過路上大木ヲ新

白ク削大文字ヲリ松火高アケテ見我名字

各多リ此木ノ下ニ死セシト書ニ驚馬馬ノ口ハ見

処ヨ四方ヨリ雨ノ如ク射シ不道ニ干自殺ス秋九月

瘦馬ニ乘干馬陵ニ来干此木ニ虫ノ食ル文字

形様ニ見干此処ノ往事ヲ思出干作シル詩也

羅衣也祿物論露顯一草一葉一花

啼花 啼月 啼人

六天。地水火風空識也

六道地獄餓鬼畜生脩羅人天也

有八寒八熱十六大地獄各一層煨屎盡其鋒又烈河亦有十六眷

地獄 有二百廿六地獄也

心ノよのほほしく 乾くところ 穢れたる

餓鬼

身ヲセシム心ニタカ子干コシ思ルソニ忘ル干又ル月

畜生

水住雲井ニカケル心ニモ世細ハイカ、カチ干月

脩羅

波多子心水ノ今又ルニ悔ニ住哉月

今ノ恨ヲ報スル所ニ悔ニ住哉月

人道

△夢世日月日かたし明きて又いづれか身し世の

天道

△天に上りて跡なきもかたし天の衣日

△あまのいづれに信しきものいづれに物も

加声聞縁覚菩薩佛が十界也

色聞

△色に上りて空跡消しし然るに山法にアハスハ日

△地火の強きものいづれに我れいづれに

縁覚

△奥山に独りて世悟にキ有死色に凡に五世に

△春の花秋の紅葉もよもよのいづれに思ひ

菩薩

△秋月七千人一夜隔て手カツし教残るに半日

△いづれに樺の海もよもよのいづれに

佛

△いづれに雲ハサカラス晴ツキチ亦上モナクスル月其日

△長夜といふ長と短とをいづれに

ろくは死らむ六波羅蜜 布施 淨戒 安忍 精進

檀波羅蜜

△天竺語 唐にハ布施ト云 治慳貪罪心也

△いづれに月と夜とをいづれに

△六度ト云 檀波羅蜜

尸羅波羅蜜

天竺語也唐云戒
治妄語罪也

け法いもまなまんん玉りれい長夜くく次たくく也日

犀羴提波羅蜜

天竺語唐云忍辱
治嗔恚罪也

胸の火く海は為し今いくくのりかく下に思きき日

毘梨耶波羅蜜

天竺語唐云精進
治汚穢濁心也无懈怠

智つ子三世は法はれい心とあめ山川のあり日

禪那波羅蜜

天竺語唐云息思亦禪定
治散乱鹿動心也

心と心に底にたまさめ心にて摩しうこみみ床の日

般若波羅蜜

天竺語唐云智慧
治愚癡迷情也

加常樂我淨は十波羅蜜也以神明六波羅

蜜配當八事檀波羅蜜神者縮荷敷嶋

竹生嶋等也是施福神明十故也尸羅波羅蜜

神者不妄語為本八攝北野也正直頭宿下

誓給故也忍辱波羅蜜神者鴨平野也

精進波羅蜜神者熊野白山推現亦是也精

進者行為本故也。禪定波羅蜜神者天照太
神是也。以寂靜為本故也。智慧波羅蜜神者
春日山王木也。以法施為本。以法門為神躰。暨
雖於佛法有万行諸業。不出十波羅蜜。一一
約不越六度。故神道利益。或顯擅度之益。或
示智慧法門。給也。又神折伏接受。二利益在之
所謂。陬訪位吉木折伏神明也。賀茂春日木接
受神明也。

ろくろく 六通。天眼。天耳。他心。宿住。神境。漏尽也。

ろくろく 六相。花叢經。惣別同異。成壞也。

ろくろく 六節。一理二名字三觀行四相似五分証

ろくろく 六和。一身和共住二見和同解三口和无諍

ろくろく 六念。四戒和同導五意和无違六利和同均也

ろくろく 六根。眼耳鼻舌身意。六觸同也

ろくろく 六塵。色声香味觸法也。

ろくろく 六合。神合三讀國也。東南西北天地也。

うぐえん六神・青竜木朱雀土勾陳土騰蛇土白虎金玄武水

うぐえん六親・父母・兄弟・妻子ホ養属也

うぐえん六順・君義・臣行・父慈・子孝・兄愛・弟敬

うぐちく六畜・鶏・狗・猪・羊・牛・馬也

うぐめいさう 鹿鳴草 萩名也 朗詠萩歌曰

曉露鹿鳴花始發 百般攀折一時情マロ 菅

万曉乃廉のくまをけさかれ 書りて考ふ也文

うぐえん 朗 季文子妾不衣帛 魯人以為美談ト

○ げ 波 へ 八 毫 半 端 葉 口 縛 不可得

ちちちく はちちくは 端近ト合

はちちく あまき小国と云らひて之を日月と云

はちちく 葉守神也 柏木ニアリ

ちちちく のて 柏が守 紅葉と云りの 邪と云

ちちちく ひめ丹立山姫ト云 土神ヲ云

はちちく 川惣名也

ちちちく 花名也 たどかしの 名也 別ニアリ

△とすすもき 惠のうさきころきもて作らるる 宿の夢

一祝徳ニキテ 幡ノ旗ニナヒラシク云ニラスキトハキトシク

徳ニおそセス 思タル心也

△とやて 早風也 海中ニ雲吹ル也

△浪きりし中 杖もやて 所よかん 生國の夜ト下すり 所り身

付 七月十九日 玉糸 糸 結 燈

△鳥の屋シカ 放也 鶴トヨム 亦云生天条タル著者ニテ 謝シハサニテ多を拜謝始云

△鳥のやう 祝もろし 杖 思 夢 のろろとき 心 結

夕ナラシトハ 手 馴タル也

△とやのろろ 杖 鶴ト各 昔羽ノニ 云ニ

生タル故ニ 夢ニトウシヌ也

△人 心 夢 の 鶴 杖 思 夢 の 杖

定 亦 云 夢 杖 然 杖 但 連 夢 杖 取 ヨル

付 何 の ろろ 杖 思 夢 の 杖 杖 朱 買 臣 古 夢

△思 夢 杖 の 杖 思 夢 の 杖 杖 杖 杖 杖

△とら 杖 思 夢 の 杖 杖 杖 杖 杖 杖

杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖 杖

△とら 杖 思 夢 の 杖 杖 杖 杖 杖 杖

△とら 杖 思 夢 の 杖 杖 杖 杖 杖 杖

△とら 杖 思 夢 の 杖 杖 杖 杖 杖 杖

よき 柿ト書布サラス杭也

あまのやも嫉のばり依候よきまもねとくぬ

はきよもちい 母子草ト云花ニテスル餅也

花の里のよき 花美花好ふえりくはめり

よひ花のつら 灰交ト書ハヒテクハト云種也

よき花のつら 花は糸ト書也 源氏ニアリ

よき花のつら 花は糸ト書也 源氏ニアリ

春月ト書キテ花ヲシツムルツ云

よき花のつら 花類ト云源氏ニアリ

奥山の花の扉とまはあまてまのうらな花の只

は花のつら 花と着 亦花ニ

よき花のつら 花と着 亦花ニ

よき花のつら 花と着 亦花ニ

よき花のつら 花と着 亦花ニ

よき花のつら 花と着 亦花ニ

よき花のつら 花と着 亦花ニ

よき花のつら 花と着 亦花ニ

ヨラトモトハヨラトモヨ也ヒタトハ偏也 萩原の里を

倭磨國也昔一夜ニ有リ一丈ノ新生ケリトイハ新
名シカク下リキ國ノ名トス社宮皇后所取也

げりノ祿 カリハ子也 草木ノ根也

えこころ重 箱鳥ト春 源氏ニアリ 鷗ト春

△保山本祿ノ定ねとこを新ナリトイハ思ハレ

是ハ女ニ宮栢木ノ末ヲ播ニ春時也新時多ク

入干飼給シナリ 春ノ友ニシテ世ノ人ニ多ク

ばらちナリ 放鳥執中ヨリ出スヲ云祝言ハ不諫

△保ノ交ニあり此地ノ名ヲちる人同小ニひて歌ナリ

一峰ノ文地ノ名ヲ放鳥ノ名ニハカケテ書キナリ

峰文泊池 和州也

はひノす 灰入也アノシサス也紅際ニ色ニヨリキ

渥サスト云也

△秋葉ノ田ノ紅葉多ク時々ノ名ニヤノハ

をよアノ名ニキ 機踏木ト書

△げり物ノ名ニキト云テ天ノ打橋ナリ書ク

はすりナリ 万羽ナリ春又蓮色也紅ノハ赤色ハ

羽色也只為紅也

とりめ夜 綴ツクリ云針目ニケク縫テ。尸シハ云也

山山後後の短短きとりめ夜夜キテ電の夕夕をいそおんん

はふふ 岸ノ崩タルヲ云 万ニ云

△伯耆の岸よまきり松祿のつらうまきりしをふ

△はみまて唐くろ丸ゆり伯耆松の川とはり

と成る中 初雁 八月十五日美ヲ初雁ト云統七月三

△越後と水無月ヨメリまきりし葉はとし初雁はり

九月三毛初雁トヨメリ

△長刀のたれ初雁の使しと思ふこいへんこいおも

はきこめて 河上渡取スツアンシ云 たふ辨辨辯辯哥

△はくしはままここ心とんん以上あままて天の回来とりや

△はせはとんんんせう 芭蕉葉化女作詠又アリ

大唐。安成。彭元切 山中庵ニリ 奴シ墨一日暮時

婦人来テ奴臥室中ニ入ル奴是ヲ逐出ス不去奴ノ

榻上ヨリ是ヲ擲杖一葉如シ奴懼テ起テ仏

前行キ誦テ經シ居婦人笑曰ク 經垂從仏口出仏

豈真在經ニ汝謂畏誠畏經耶天特明起于有

神鐘擊之婦曰莫打人人打得人及碎取頭上
牙梳掠頭畢遂去奴婦行処見松林間
入忽失又見林中芭蕉ソマリ奴故干見壁
有五言記思婦人芭蕉ソマリ記曰

妾住小水边 君住青山下 青年不可弃 白日坐成夜
只見船泊岸 不见岸泊船 岂能深谷裡 风雨誤芳年
薄情君抛弃 咫尺万里远 一收月空明 芭蕉心不展
解下绿罗裙 无情对有情 那知妾意重 只道妾身轻

経後山口出 仙不在經裏 郎在妾心裏 郎身隔万里
月色照羅衣 永夜不能寝 莫打五更鐘 打得人心碎

古寺地蔵の心付く葉のよみまじりて秋風吹
芭蕉葉ヨイカテ風ソ恨テ秋ノ心ノ色ニ出ヌル 芭蕉
万放也 トクヨリ也

詭ト書 又也將也

花宴 源氏物語 卷右 野也

草木生出也 花夕光ト春

花机 蠅 夏ア虫也

ばくろひ 蠅拂 白拂 へんくへん 母上 焼上

へんくへん 膚 肌 ばくろへん 草葛 卜念

ばくろひ 刷毛 へんくへん 掃墨

へんくへん 炭火消也 忌法書曰

護摩火也 灰多し 灰少 種蒔き さいり 持び せん物

いらむせん 灰の下より 埋火がらむ ねの所わ さいり 儀

へんくへん 放儀也 ばくろへん 掃

ばくろへん 灰の厚く さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀

へんくへん さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀

へんくへん 荷葉 蓮花 さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀

観蓮知自浄 見菓 尊心徳 蓮華在氷

さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀

へんくへん 蚊行 腹行 虫也 ばくろへん 掃

ばくろへん 山 大裏 仙家 若 さいり 儀 鷄 鷄 鷄

さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀

さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀 さいり 儀

へんくへん 言 卜書也 さいり 儀 無見 日本記 無采

無光 卜書

ふひまをえのくつまきく源氏ニテリ 獲面也

はまのとり 夜鳥 花鳥十也 源氏ニテリ

夜鳥のまきまきをいひしるまきまき也

もききく 帚木 各庭拂ハキク云又森中

十トヨリ一枚茂リタル指出シモ云金所ヨリ見エテ下ヨリ

見ハニエ又也 亦母ニヨセテ多ヨリ又ハキ木 源氏ニ
いひまきまき ハキ木 源氏ニ

もききく 源氏ニ 無道ト書

月六日 歯固ト各尚書云西月上元日

祀祚進酒降神致福祥又長和三年正月二日言 餅鏡傳見例始也

物語初曰 もききく 夜鳥ト云トアリ

皇女禎子三糸院女三宮陽明門院是也母中

宮姪 清堂清女 後三糸院母也

もききく 初音 源氏卷名 亦只名の始テ吟シモ云ハシ

い巻の石上と炸表と贈答を宗致

年月とまらよひまきく ハキ木 源氏ニ

まらよひ初まきまき ハキ木 源氏ニ

はまのとり 源氏 日本記 泰ト各

ハキ木

付くのみま 腹赤汚贅 五番番合目 右二位中将

初春乃衣はひたし長後乃御付 我々の

景行天皇乃宇筑後國宇土郡長後三乎此奥三乃

奉ケル毎午節舍三供スハ由定シカシ侍也腹赤

食様トキ食残之ル皆取度干食ケリ最嫌敷

様也 八月十五日儀汚神又不支

ん志を志 放生舍 放生ノ儀宣事縁記明

△世ふかくてははらうもすくらす生はらう

寂勝王経長者流水品也魚ノ事ヨリ起ケル汚指也

付くみぢふ 伯耆國 伯耆 六管南北二日半 山陰道 全國內

るまのた 播磨國 播州 六管四日半 山陽道 全國內

△幡店乃海作乃為富い乃あさるのこも

△はらふ乃の儀乃なやるの儀乃焼の月乃

はこむし 國 日本記 字 三音

えこさ 箱崎 鏡前也 播磨并御誕生処也仍伊予産宮

△箱崎乃松乃此は後乃多たてきけり沙埴波羅密

△夷代乃箱崎乃松乃此は後乃多たてきけり沙埴波羅密

箱崎者八流播入之箱自此流寄故名此
浦箱崎一流播流束处産給故神蹟人多幡弁
彼箱八幡先給暇胞衣入今納其箱給故箱崎云
此胞衣戒定惠三字要文詳有之仍要文納給
箱下申也四徳波羅蜜経舞踊待然哥モヨリ

けつのはわきげ月 春日秋月賞事

春陽始也日陽也賞陽故云春日也休陰始也

月陰也賞陰故云秋月也陰陽分故記之藤原

右春の月はえんといふはけりしもの言とぬれしもの言と

とやー月 早塩

けや塩やまの濃なるけはよけ付しまるよの月為年

けーと 端書ト古神書ト云是也

司之 奥まてかんじ端書に例とほす人の我内

とく 庭塵拂也掃ト春

祠 けく人よまき古の庭の両いせりて飯丸

拾釣毎トヤツとく宿のまきとる夜らん作とておれえん

とつえ 羽杖ト春 續草庵集 頓向

古名井おりのとる春はるよりえつたはるりやう

くすのくらえ 荷立枝書 長秋詠藻

少子より平打て神より引んて千の城を救はるる玉

くゆりり 蚌 蛤書

句云

蚌含明月 兎子懐胎 注云漢江出蚌人中

有明珠到中秋月出蚌浮於水面開口含月光

感而産珠含浦珠是也中秋有月則珠多无

月則珠少 兎属陰中秋月生時開口吞其

光便乃懐胎口中産兒亦是自有月則多

无月則少

けいのんぐん 鳩介書 六度 天竺云波羅蜜 亦云到彼岸

狀迎仏九支那行壇波羅密時作尸毘兵見

衆生如一子帝杖欽試語毘首羯一天云汝

為鳩逃入王懐我成鷹鳥追王心試云畢于成

鳩来王脇入鷹鳥追前樹居我鳩返給

乞王曰吾一切众生有救心不可返云鷹鳥云我

非衆生其何不憐之今日食棄給云取王

救鳩命助鷹鳥飢念取乃自股肉割与之取

鷹云鳩重カラス等得云王取チカ介カサ絞系鳩弥重
股肉弥瘦一身中肉割取加猶輕鷹云肉皆
吞鳩猶重カラス早鳩我返給ト青見王云更不可返
云我身介絞系取スナ筋絶力尽チカ倒壁言自責ト云
不悔此若甚少地獄若元量何不チカ幾チカ更身
痛イ美イ心弱イ將落云召人引起セ云又取介懸心
少許チカ无悔念其取大地振動天花雨鷹鳥成木
帝狀鳩成木昆青鷄ト玉身疵如元皆愈果

付心 鳩カラス下 鷄カサ下 鳩カラス下 鷄カサ下 鷄カサ下 鷄カサ下
△鳩と云り鷄と云り古の袂代りも鷄と云り

えくじ 字 育月 書 續後撰 撰大細之長家

はくし 昔乃袖いあ玉に花栲の表ハクシはくし
初本結ト吞髮結也

ゆいひ 初乃袖いあ玉に花栲の表ハクシはくし
ゆいひ 初乃袖いあ玉に花栲の表ハクシはくし

はくし 襟ト吞 拾遺集物名隱題
はくし 羽長虫 日集月題 仙宗法師

宵月[△]の[△]浪の[△]勢を[△]なす[△]ふ[△]る[△]く[△]し[△]ま[△]い[△]し[△]斗
け[△]やく[△]煙[△]焼[△]春[△]也 拾遺集

か[△]い[△]山[△]を[△]そ[△]や[△]め[△]の[△]気[△]を[△]り[△]え[△]し[△]標[△]を[△]死[△]て[△]飛 長祿

ろ[△]ろ[△]ろ[△]腹[△]聞[△]春[△]腋[△]を[△]き[△]し[△]也[△]腋[△]立[△]か[△]し[△]年[△]人[△]云

金[△]を[△]漆[△]る[△]ぬ[△]る[△]人[△]た[△]る[△]け[△]あ[△]る[△]る[△]る[△]た[△]君[△]の[△]や

け[△]し[△]く[△]と[△]端[△]を[△]半[△]く[△]春

日[△]教[△]す[△]ぬ[△]か[△]と[△]ら[△]河[△]の[△]け[△]し[△]い[△]に[△]た[△]か[△]る[△]も[△]あ[△]や[△]物

ろ[△]ろ[△]ろ[△]か[△]ら[△]と[△]る[△]ろ[△]ろ[△]大[△]鳥[△]初[△]鳥[△]狩[△]九[△]月[△]九[△]日[△]を[△]奉

出[△]于[△]狩[△]場[△]行[△]南[△]へ[△]立[△]雄[△]合[△]于[△]取[△]飼[△]云

△[△]雲[△]霧[△]の[△]い[△]い[△]雲[△]の[△]秋[△]山[△]と[△]る[△]ろ[△]ろ[△]衣[△]の[△]や[△]狩[△]の[△]南[△]

け[△]ろ[△]の[△]ろ[△]鳩[△]谷[△]鷹[△]鳥[△]と[△]春[△]奥[△]州[△]鳩[△]谷[△]と[△]云[△]所

アリ[△]彼[△]処[△]ヨリ[△]出[△]ル[△]云[△]一[△]系[△]院[△]法[△]也[△]逸[△]物[△]也[△]云[△]

陸[△]奥[△]の[△]鳩[△]の[△]習[△]性[△]を[△]く[△]り[△]教[△]の[△]た[△]め[△]の[△]統[△]を[△]と[△]え[△]り

愚[△]童[△]訓[△]中[△]卷[△]云[△] 幡一[△]系[△]院[△]法[△]宇[△]ニ[△]奥[△]加[△]ヨリ[△]奉[△]シ

夜[△]シ[△]鳩[△]谷[△]ト[△]若[△]付[△]于[△]御[△]秘[△]苑[△]アリ[△]此[△]夜[△]親[△]シ[△]鳩[△]持[△]

ケ[△]リ[△]何[△]ニ[△]知[△]リ[△]ケ[△]シ[△]款[△]ケ[△]ル[△]也[△]外[△]顯[△]物[△]シ[△]モ[△]不[△]食[△]メ

命[△]危[△]ク[△]見[△]シ[△]カ[△]八[△]平[△]事[△]に[△]非[△]ト[△]于[△]法[△]台[△]アリ[△]ケ[△]ル[△]ニ[△]大[△]物

思[△]事[△]アリ[△]不[△]放[△]ハ[△]可[△]死[△]由[△]シ[△]奏[△]聞[△]シ[△]ケ[△]シ[△]八[△]日[△]奏[△]馬[△]

飼^カ給^レシ^テ情^ハ思^召上^モ迎^上生^ニ年^十十^六ト^キ殺^放
シカハ聽^ハ八^幡幣^ヲ舞^ニ糸^ヲ尾^ニ付^ル鈴^ヲ喰^シ
切^テ神^前ニ^手向^テ去^行シカハ鶴^ト同^伴セ^リ見^ル
物^恠シ^ナシ^カト^心中^ニ何^レ神^明ヨ^リ外^ハ知^ハキ
其^後奥^庭カ^ク親^ノ鷹^鳥ノ^取テ^シ梢^ニ上^リ大^ニ下^ル
二^重ニ^巢シ^喰テ^居タ^リケ^リ解^カ先^ニ習^テ下^リ
棄^テ下^テ取^トス^ル暇^下ノ^巢ヘ^ツト^潜テ^進ミ^出テ
待^処ニ^追次^取上^テ小^ニ巢^シ離^潜処^ニ頭^ヲ仰^テ
擗^シカ^ハ勇^モ雌^モ云^甲斐^ソ枝^取ケ^ル其^后世^鷹鳥^シ
人^捉不^乖メ^取シ^又見^ハ是^先鳩^谷ナ^リシ^カハ^度
様^シ奏^團メ^帝ヘ^言シ^ソ進^セケ^ルサ^テク^ン鳩^谷ハ
款^ノ敵^打ト^テ大^弁ニ^参テ^鈴ヲ^手向^進テ^祈ル
駿^有テ^言身^ナシ^ト角^取テ^ケリ^ト都^鄙ノ
間^不思^儀才^一ト^申傳^ケル^此鈴^ハ金^也南^社ノ^寶
苑^ニ筑^シカ^シテ^今ニ^アリ^目茲^彼巢^ノ在^所鳩^谷
ト^云鶴^シ也^神意^ニ副^遣給^故也^有优^夜鶴^ハ子^シ

擗^シカ^ハ勇^モ雌^モ云^甲斐^ソ枝^取ケ^ル其^后世^鷹鳥^シ
人^捉不^乖メ^取シ^又見^ハ是^先鳩^谷ナ^リシ^カハ^度
様^シ奏^團メ^帝ヘ^言シ^ソ進^セケ^ルサ^テク^ン鳩^谷ハ
款^ノ敵^打ト^テ大^弁ニ^参テ^鈴ヲ^手向^進テ^祈ル
駿^有テ^言身^ナシ^ト角^取テ^ケリ^ト都^鄙ノ
間^不思^儀才^一ト^申傳^ケル^此鈴^ハ金^也南^社ノ^寶
苑^ニ筑^シカ^シテ^今ニ^アリ^目茲^彼巢^ノ在^所鳩^谷
ト^云鶴^シ也^神意^ニ副^遣給^故也^有优^夜鶴^ハ子^シ

思声丸カサ高林カラス鳥ホ哺カス報孝三月及七カ白鷄カ
國王毒カ除カ病雀カ揚カ宝カ忌カ醉カ州カ穴カ鳳カ
凰カ聖明代カ出カ雲山カ鸚鵡カ八カ旨カ父母カツカ養カ食カ
彼カ様カ鳥カハカ多カケカトカ未カ見カ親カ敵カツカ打カ事カ心カ支カ
度カモカ有カ雉カ勝カ於カ又カ鴿カ谷カ哉カ物カ知カカカシカキカ鳥カツカニカ毛カ敵カ
ツカ打カ為カ八カ幡カ申カ入カ于カ本カ意カツカ遂カ者カ十カしカ八カ増カチカ人カ
倫カトカシカ方カ箭カツカ取カ軍カ誰カ首カツカ不カ傾カ何カ誠カツカ不カ冷カ
信カ力カ真カアカルカ事カ神カ慮カ感カ應カ心カ無カ疑カ処カ也カ

そふカえカ止カんカらカ大カ

初鳥也狩場カ手カ初カ于カ三カ鳥カ也カ又カ喰カるカ

けカふカるカとカまカいカんカずカんカ指カ人カのカ地カをカまカいカ我カ家カのカとカちカ

そふカまカすカつカふカれカとカらカつカ大カ飼カのカ打カツカハカ袋カかカつカくカんカ成カ
はカらカいカのカめカのカ羽カをカたカりカ能カ起カるカ多カシカ譚カ詞カ也カ

そふカ屋カへカ初カ鳥カ屋カ出カトカキカ

そふカ知カるカやカつカれカ指カとカらカつカるカあカまカいカとカしカ初カ家カ
そふカつカまカるカ日カ鼻カ着カ乘カ書カ

そふカいカちカわカるカまカけカつカれカあカらカまカいカとカらカつカまカるカあカらカ大カのカあカらカ

鳥ハ落スル所ヲハタラカスニ有ハ尤在ナク犬ガニテ

はさし 日狗噫ト書 咬

△^秀あまこくし極の多ク為草に獲るをいひ、多クはり殺

とまりり日迫ト書 入トモ書

△尾の下ノ花入露ヲ流ルはせはまりにらする多クはり殺

△^日きとてりりよとてぬはりはまりを獲るひよりて 齧る

△^日をこまりもくく犬入お流れをきりるをい流れきり

△^日釣のたがちの老はかり白尾流すハ尾ノカキ

はいより少く 鶴文ト書 鶴 鶴日 鶴鳥日 那鳥日

△^日我もきりるを付る老流から釣せと書やと書

大小トモヤル病 是 カラフルシ (キ)ノ白昇ノニニメニヤヒトニニスル

らり 基ト書

△^後クふ色いきまきう物と後りくく 流と基と書 中將更衣

はらとをれとひ

△^日蓮葉花をひりて入無うんとをれはら申にお

とく

△^日あかりする桐のちとふ有る花をくくとくを神あり

けしひめ 橋姫 原氏橋姫巻ニホホト

△^日橋姫の心とらとておせやす筆は志はく小神あり

○に仁舟舟小耳下り尔二尼名号得

にひりり 色也白光アリ帝清衣文

小こころ 葉三ツカサ根木陰ニ生ル也若草ニ花ノツニシタル云壁ニ生ル共云リ

におたまり 新年枕ト春源文ニアリ

△おたまり 新米枕トおたまり

おたまり 鶏也ウスヘ云云

△おたまり 鶏也ウスヘ云云

△おたまり 鶏也ウスヘ云云

カケト云モ鶏也 春津鳥ツハ言助也

行はるゝ二四八ト各付るを夢鳴カサヌル也。雞ノ声

ヨリ起ル亦サトク少ト云。始テ少トモ云リ

奈長坂よまゐるはさす時を二四八とこゝろを

堀川百首ニシテカリトハ百千返ト各

よまゐるはさす時を二四八とこゝろを

あゝのさす 為浮業 蓋シヨリニテ浮ニツメ

辰ニナカシ又振ニスル也。閑水多 磯鶴ト各

す業此清めりよる業此信とまゐる物とこゝろ

にるは公の海 源氏 荷車 景行天皇之治ハ四幸取五

月雨横川水増え依テ車ヲ荷テ越え也

金まゐる 源氏 似方ける事也中シ云也

ゆめおのけりひ 源氏 西川 秋也

はるこしきりりへ 藝芸居候ト各

あつあつしらふ 開口笑ト各 愛園トモ書

行ききり 錦鳥 小多ノ色ナシ云又密強ノ使ハ童若

三年もそひかそたる綿多わらふの使とせよ

舟 虹 蛸 蛭 蜷

はかり 執負持 若 若 若 若 若 若 若 若 若 若

ま金入ま いぬの汁のし 若や 若 若 若 若 若 若 若 若 若

行々之 睨 白眼 各 にくく くら 源氏 無二也

少 詔 銚 少 くい ます 源氏 憎 患 疾

に 丹 赤 色 みの の う き 丹 生 神 高 野 鎮 守 四 所 明 神 其 也 伊 勢 國 之

みの の ぬい 伊 勢 物 語 西 對 にくく の ん 女 院

に ぎん じ 賑 饅 上 七 少 ぎん ぶ にくく の 大 調 贍

ふ ぎん じ ぎん ぎん ぎん 漿 ぎん ぎん の 河 花

に ぎん じ ぎん ぎん ぎん 北 近 上 春 北 向 六 終 衛

に ぎん じ ぎん ぎん ぎん 成 上 春 醜

カラ 國 名 残 之 ケル 人 ヨリ モ 行 エ トラ シ 又 家 井 シ ヤ セ ン 屈 原 也

に ころ よ 濁 世 ス ン チ ラ 又 世 也 未 世 也 屈 原 言 海 あり

世 皆 濁 我 独 清 衆 人 醉 我 又 醒 下 云 此 心 心 命 象

世 政 シ ソ リ 干 泪 羅 水 云 处 津 三 十 九 三 年 間

秋 菊 花 シ 食 シ 蘭 露 シ 吞 干 住 ケ リ 漢 文 是 シ 見 干

其 故 シ 向 取 各 々 言 也 漢 文 此 語 シ 聞 干 曰 世 皆 濁 也

何 不 混 其 泥 而 揚 其 波 衆 人 醉 何 不 醉 其 糟 而 飲

其 醜 惡 思 干 放 下 云 屈 原 固 不 如 波 中 入 矣 腹 三

ア ラ シ ト 云 干 没 メ 死 ス 漢 文 無 シ 扣 干 歌 干 曰 滄 浪 之 水 清 可

以 濯 命 滄 滄 浪 之 水 濁 以 我 足 洗 云

によぎよお 女叙位 新嘗會合題 大并制臣

春小の至るに叙位ハの君の妻とあり侍り

正月八日女位階ハ叙せらる事侍也其中に内

侍司ハ被官ハ天皇ハト云者アリ法華取姫松

ト呼敷馬ハ乘干供奉ス是ハ三子ハ被用ヤ

三子天子ハ守干アリ由緒アリ毎年申文ハ

出メ女叙位ハ五位ノ位ハ給也是ハ昔ヨリ同若リ

干相傳メ名ハ元不思儀ナル事也

にる現 新嘗會也 中書省合題 ハ

△いね秋細 米ハ手ハハ年ハハハハ始メ

新嘗會トハ今年初稻ハ神奉セ給也代始ハ

大嘗會ト云毎年ハ新嘗會ト云也

にる現 荷前ト春 日方合題 伎羅向也

△かみかたのあはれとよひめて年ハハハハハハ

荷前ハ先皇法陵八年終幣帛ハ奉セ給也

小き 幣中ト云ニキキハ幣手也五社法不百有後成

△かみの櫛ハ枝ハにハハハハハハハハハハ

仁者無以尚之惡不仁者其為仁矣不

運勢

蝮蛇驚馬劍影便逃死
馬惡衣香欲噬人
都長香

聞名戲欲契借老
恐惡衰翁首似霜

女郎花諫也借者俱也

論語曰君子惡居下流天下惡皆歸焉

子曰仁者能好人能惡人子曰苟志於仁矣

無惡也曰全我未見好仁者惡不仁者好

仁者無以尚之惡不仁者其為仁矣不

使不仁者加乎其身

同 君子疾沒世而名不稱焉

全 君子疾夫舍曰欲之而必更為之辭立也聞

日 有惡乎稱人之惡者惡居下流而訕上

者惡勇而無礼者惡早敢而窒者

後 仁者無以尚之惡不仁者其為仁矣不
中宮内侍

にり濁トキ

後年とてにりこせあやひえまをいふりて今カ位

小芳 逃 逃ト書

日と田の甘きあやひはさるるはとひさしは

にまらみり 源氏物語詞ニソメル也

中リ落墨也ニ似たり也

○ほ保いほ本帆穂甫第奇得

やら 穂立ト書 楠ノ木ニ出ル也

△ほちす秋いきたうりおりのりら早苗神

ほいけ 藤十ト穂ノ一方ニ靡向ナシ云穂向ト書

ほろまおまわー 万ホト八顯ル也口ハ廢字也アツシ

トハワシシ也踏渡也

△中いりりよあまわー 船おらまうふキ

おまわー 打撃馬ケル也

拾 ちまはまはるるふらふらえははー

拾 △交作いほれぬくもれとてふのりし

子方 いためつうえの物 中 ちりそ 下 枝の あり あり あり

つづ 木枝ト春 舎 枝也 抄也

ほいけ 不力也 朗ト春 万葉云

△月書あつるまやま枝のほふん人ふふま

ほいけ 星系 九月う方北山 星供いも也

ほいけ 穂莖古幹ト春 万葉

△新宮あつるまやま枝のほふん人ふふま

ほいけ せり 樂名 長保系破也

へ、鉾矛槍

へ、架 壺一也

ほのゆげの霧 是

く 万サカスル也

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口 响犬一也 吠吼

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

ほのゆげの霧 是 側干 嶺邊上頭口

りしとくくを 小戴星書

註社久中懐

定家

淡中やあふ星はつてまて新柳ふきの楳と
知や君星とつてまて年ウリて新世は月も新
なり

いこのとほく 鋒羽突書 雲銅 谷ヨリ峯へアガレ

ふ羽ツカヒシ云也 麓へ下シハ落羽ヤレト云也

ほく字月夜ツモニアリ 法螺貝ニ似タル毛雲ノ

ソハニアリ 妻の野乃鹿のりもほのくといゆ月ノ
傍

いこの月架書 外架 架綾 架衣

いこの月架書 外架 架綾 架衣
いこの月架書 外架 架綾 架衣
いこの月架書 外架 架綾 架衣

○へ人色部 色 経歴 不可得第一義

魚 隔部 万隔ニケラ也

魚 爲 寔 魚つみよの寔 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

魚 爲 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也 寔 寔寔也

〇こぼし 夕 登

不可得

こぼしの橋千代常世國より来故云

こぼし物持の也と云に秋大君の今よりカケル

こぼすのちと十有菅席ト云十有三は菅三也

△陸奥の十女三すあくと七あり君と喜三て三女三心

とらやとねと

七夕使の事トセとるやとねと三と

七夕ニ手向ノ書ニ視水とるやとら又前三曉

汲也其三ノ三痛三ム三老三人三ヨ三早三後三也

三のし三け三り三 之妻ト書七夕妻也三二十九妻ト云

△天川三ト三し三く三神三ハ三カ三ア三妻三ヤ三リ三ト三リ三ク三相三傳三偏

こぼしの川主河泊神也

△妻三あ三つ三り三志三め三り三功三成三り三と三や三れ三女三後三に三カ三ン三持三す三の三精

トイハク後ハ五ト返也

とまわひ三さ三ね 解洗衣ト也

△夕去三に三林三風三は三む三り三や三き三ム三ハ三ム三と三あ三ひ三出三る三夕三也

こぼし三の三言三也

△こぼし三の三言三也 言三の三言三也 言三の三言三也 言三の三言三也

覚三之三方三ナ三リ三 宛三還三有三ト三也 宛三カ三レ三言三也 三三飯

来三ッ三夕三カ三レ三言三也 夕三向三着三也 又三名三屋三カ三レ三言三ト

中世の力にさかづる意と故はきり年とされ共束とす
トカハトト字多ト云字子付干共意多

ト云シる也

△笑心者乃ころつ山推果の羽之は長君のしはれ

十度中よりシル意のシ云也

△こらりの 席素也やウキ命ノ喻也

△虎女素あつ座とやて巻則に較よりてこらり
席ノ命ニ喻干命ニ捨生死ノ古ノシ出干 左乃也

惡趣シモ恐ス念仏利干先常波鬼シキ下下意 叙

△舍利斂即具弥陀号 一声稱念罪皆除

△ちやんたんふふ 鞞矢年交ト書 鞞ト矢トシ云 尻筆 ヤナヒ也

亦し矢ヲ云 的矢ヲ云 得物矢ト書物ヲ矢也

△ますものもやんまこと之のひのりまこといカク
まのま 苗シ云 人丸界云 箱也 トミヤク 夜大ヨク ちまき

△の月よりおのの山田中袖むせとまき 箱之類

△ちのの 箱と云 無凡界云ヤシ箱也

△いよやふと苗なるものまかりあゆみ解らぬ凡はま 箱

△あひまきませ 同来ト云也

△秋宿い痛のいりまきくいあひまきませ板と書り

△まぐい痛いひまきませおのり痛の山中板と書り

△まぐい痛いひまきませおのり痛の山中板と書り

まゝおまじし 通入障子ト書 紫宸殿清後七廻

中間清なる居障子也 源氏

よのおり 宿直申 源氏式刻ヨリ子越三手右近清

同丑刻ヨリ卯辰三手右近司役也

よの井よの袋 殿上宿直人々名字書タレ札シ

入レ袋也 源氏ニアリ

海子の所えのころすふ小取手杖打度ト書万ニアリ

このまもり力 兵衛近清 出門符也

と付りり 三六之程也 哲也 源氏ニアリ

深しとみはくよふへふまき 靴十ツ四六字也 亦ト書

まゝかろみ 苑見角見ト書トカク見也 傳抄ヲ疑ニアリ

こゝまのまゝ 敬崎崎 け國居也

こゝまのまゝ 没齒ト書 年老タレ也

こゝまのまゝ 法常ト書 長命ト書 三ツト書 可

とみかく小云云ト書 月ト書 種ハ文ナリ 枝同家クモル夜ハタノ独

まゝのこ 鳥子 幾色如 月ト書 種ハ文ナリ 枝同家クモル夜ハタノ独

とみかく 敗北 取姥 ころまゝと 不取敵

ころまゝ守 取回 ころまゝ又 万取寄也

ミズ 捕囚擒

ミル ぬかす 執拏拏拏ト云

ミル ちぢ 他取楫 面積

ミル のて 轆車一也

ミル 十拾

ミル 若羊 田カル手也 田カル上ト云

ミル 下のり 虫系ト云

ミル 子り シトキト云也

ミル 云為ト云

ミル 遠遼長

ミル 遥點ト書

ミル 蓬屋 苔屋

ミル 燈

ミル 炷 燈心ト云

ミル 燈 燈暗教行處氏涙 北河四面楚歌声

ミル 草薺 野光ト云 為云

ミル 櫓 鷄居ト云

ミル 鳥 鷓鴣ト書

ミル 鼓 ト云 轟ト云

ミル 藝 ト云 百ト云

ミル 滯

ミル 調 整

ミル 託 春夕ト云 湯山方ノ米コト云 松ト云 トコホリケシ 源氏ト云

ミル 訪 吊

ミル 唱 稱

ミル 解 説 脱 釋

ミル 問 評

ミル 送 ト云 送ト云

ミル 籥 笛 ト云 向子期カ隣ノ笛也

ミル 籥 笛 ト云 籥ノ笛也

こまごのいのみすう

賤ノミワサニ麦ノ藁ワラシクニ

次座ノ様ナリ枕モヤ也是ハ唐ニ倂人丈婦アリ子
等ニ三人アリカ親ノ貧ヨリ之難キ年自月父
母ノ方ニサニ右郷家ノ飯ヲ見ハトキニホノ枕計
残キ有シ見歎ノ事也

三ノヨウラウ多 常世ニ鳥 岩戸ノ冰未收電宮城

ノ鶏ヲ取キ長鳴サセキ歌舞給ハ夜明又トキ岩戸ノ
サノ用給シ鳥也 又蓬萊ノモ雁ノ放郷シモト云

三ノ世ヲ多キ抄ニシテ岩戸ノ氷未收電宮城

三ノ世ノ源氏長食ニイヒ共トノ鵲ニシテ饑長也又ツキ飯

三ノけくさん 屠蘇白散 菜名五番新合是

春毎小多分初ノ菓子ハワケ元所ノ人々若ク大分
屠蘇白散ト云菜ハ人ニ是ヲ飲又シハ家ニ病ナレト

家吞又シハ一里ニ病ナレト云目出キ 功能侍ハ年始ニ

清涼殿ニ同食也 菜子トハ稚童女也 小兒ヨリ

飲ト云本文アリキ 菜ヲ先童女ニ嘗初サセラレキ

同食ス也

三ノのいのみ 豊明 節會 五番新合是ニアリ

我身虎_レ今_レ唐_レ心_レ寄_レ脫_レ衣_レ裝_レ係_レ林_レ竹_レ成
裸_レ伏_レ給_レ元_レ二人_レ王子_レ道_レ欽_レ欽_レ飲_レ飯_レ透_レ計_レ不_レ用_レ之_レ才
一_レ王子_レ悲_レ歎_レ曰_レ我_レ弟_レ貌_レ端_レ嚴_レ又_レ母_レ偏_レ愛_レ念
云_レ何_レ俱_レ共_レ出_レ捨_レ身_レ而_レ不_レ歸_レ又_レ母_レ若_レ問_レ曰_レ我_レ弟_レ何_レ去_レ
寧_レ可_レ同_レ捐_レ命_レ豈_レ得_レ自_レ存_レ身_レ矣_レ如_レ以_レ是_レ還_レ王_レ宮_レ告_レ給_レ
余_レ因_レ夫_レ丈_レ人_レ寢_レ高_レ樓_レ上_レ便_レ共_レ遊_レ幸_レ中_レ見_レ不_レ祥_レ相_レ被_レ
割_レ兩_レ乳_レ牙_レ齒_レ墮_レ落_レ得_レ三_レ鴿_レ鴉_レ一_レ為_レ鷹_レ鳥_レ吞_レ集_レ二_レ被_レ驚_レ
怖_レ地_レ動_レ之_レ時_レ丈_レ人_レ遂_レ覺_レ心_レ大_レ愁_レ慙_レ作_レ如_レ是_レ言_レ
何_レ故_レ今_レ時_レ大_レ地_レ動_レ江_レ河_レ林_レ樹_レ皆_レ搖_レ震

日_レ無_レ精_レ光_レ如_レ覆_レ蔽_レ日_レ曛_レ乳_レ動_レ異_レ常_レ時_レ
如_レ箭_レ射_レ心_レ真_レ憂_レ苦_レ遍_レ遍_レ身_レ戰_レ掉_レ不_レ安_レ隱_レ
我_レ之_レ所_レ夢_レ不_レ祥_レ徵_レ必_レ有_レ非_レ常_レ災_レ變_レ事_レ
薩_レ埵_レ王_レ子_レ二_レ人_レ兄_レ還_レ畢_レ信_レ竹_レ割_レ取_レ我_レ身_レ突_レ破_レ
血_レ出_レ肉_レ身_レ與_レ席_レ其_レ時_レ言_レ曰_レ
於_レ生_レ死_レ海_レ作_レ大_レ舟_レ航_レ棄_レ捨_レ輪_レ迴_レ令_レ得_レ出_レ離_レ
終_レ與_レ席_レ飢_レ肉_レ身_レ今_レ滅_レ矣_レ大_レ王_レ悲_レ歎_レ而_レ言_レ若_レ哉_レ
若_レ哉_レ失_レ我_レ愛_レ子_レ

初有子時歡喜十 後失子收憂若多

若使我兒重壽命 縱我身亡不為若

公收夫人迷心稍止頭髮蓬亂兩年推會月宛轉

于地如魚处陸若牛失子悲歎而言

我子誰屠割餘骨散于地失我所愛子

憂悲不自勝 苦哉誰殺子 致斯憂世事

我心非金剛 云何而不破文 薩埵王子是逐壇

波羅塞之行今成釋迦仙者也

傳きく神さくあしわろく子竹の料より

三層也又とくといふ鳥屋納鳥屋出

三月八日鳥屋入七月十五日方生天 集炬炬于夜出也亦五月五日鳥屋入

九月九日鳥屋著燈于出南之行雌 始也鳥屋出 高只 一日 闘也

始也鳥屋出 高只 一日 闘也

鳥屋 斗也 鳥屋出高 只一 日闘 也

斗 鳥屋出高 只一 日闘 也

斗 鳥屋出高 只一 日闘 也

日 鹿嶋 長京にゆくも方より控へしむの御も
夜日 遠羽上書 遠羽ニヒクイト云綱

日 ちちのこまのれ大宮の人北夢やる高城を朝ひら
り日 通上書 鳩上書 摩上書 鷹上書

日 綱上書 してまてころりするはらりつこまやんか
と志やうり日 鳥次下書 高の三行道通上書

日 ちやうりと投ちりつとん行上まてくも高
日 遠山毛 高の毛 其一也

日 春の月物に終るも武花野を山毛の夜

日 外山トち 取山共ト下書也

日 かりとくふくもころり高城と山の宿の東城はの

とてすめころり 不問語ト也

日 高のめたすとの思上かまのいの宿のせまの

日 時間 一時間也

後 思杯のちのまのむすはのまのちころり

日 時の方城のちのまのむすはのまのちころり

日 上野のまのむすはのまのちころり

和物

大御言奴

玄上朝臣妻

うらまゝと 年功 ... 年三夜同子如也

後 △ 今まにのりくふ花のやうくしてよりせあまのり年まり

△ かく斗年まるとせね持ふおれに富よりうてはる

△ まあよひでのるん年まるとせすといね持ふお

△ きのこの年まるとあを款よまの物うぬおより有は

うしのえうり 年光トキ

△ 天の深めつり月日のほのきと年の光くつあふまぬ

かじらぬおはしと年れはうりしとくくくくくくく

もしくともく洞のくぬかたうあまのんく

かきとす 電人 青く云

色きくすあくくくくくくくくくくく

果のあきくくくくくくくくくく

十時永平十五曆
寅仲種拾一日春之

宮備大夫
若朝臣常然也

宮備大夫



110X
124
1